

名城大学 海外臨床薬学研修

研修期間：平成 28 年 7 月 24 日～平成 28 年 8 月 8 日

所 属：名城大学薬学部薬学科

学 年：5 年

学籍番号：120973261

氏 名：吉田 茜

1. 参加目的

アメリカにおける薬剤師の役割や立場を知り、日本の薬剤師と比較し、これからの薬剤師のあるべき姿を考えるとともに、自分はどのような薬剤師になりたいか考えるため。

2. 研修内容

【研修テーマ】 アメリカの薬剤師の活躍を学ぶ

【研修日程】

月日	研修内容
7 月 25 日	オリエンテーション Health Sciences Campus 見学 アメリカの臨床薬学教育、実習について USC の薬学部のスクールライフについて
7 月 26 日	精神状態の検査：イントロダクション、SOAP、患者アセスメント Keck Medical Center 見学 University Park Campus 見学
7 月 27 日	精神状態の検査
7 月 28 日	患者への薬物治療カウンセリングについて
7 月 29 日	Norris Cancer Center 見学 El Monte Independent Community Pharmacy 見学
8 月 2 日	Plaza Pharmacy (外来薬局) 見学 プレゼンテーション：教育プログラム、活動、ロケーションなど (研修にきた生徒) うつについて：イントロダクション、薬物治療学
8 月 3 日	うつについて：臨床治療学、ケーススタディー
8 月 4 日	うつについて：ケースディスカッション 不眠症の薬物治療学 不眠症：ディスカッション
8 月 5 日	プログラムの評価 修了式

【研修内容の詳細】

大学での授業ではうつを題材にまず精神医学の検査を学びました。ペアやビデオの患者との会話から精神状態の評価を行いました。そして、うつやうつに使用される薬についての授業を USC の生徒から受け、提示された症例をもとに SOAP を考え、周りの子とディスカッションし、その後全体で意見を交流しました。Keck Medical Center では薬剤部の方から病院での薬剤師の役割などのお

話しがありました。El Monte 調剤薬局では実際に処方箋の受け取りから薬の取り揃え、監査、受け渡しまでの流れを見学しました。外来薬局では麻薬や液剤などを調剤しているそれぞれの設備やカウンセリングを行っている場所、検査を行う部屋を見学しました。

3. 感想

私は平成 28 年 7 月 25 日～8 月 5 日の約 2 週間、南カリフォルニア大学にて海外臨床薬学研修に参加しました。

今回この研修に参加した目的は、医療の先進国であるアメリカで薬剤師はどのような役割があって、どのような立場であるのか、どのような教育を受けているのかを実際に目で見て確かめたいと思ったからです。

研修内容は病院と薬局の見学、うつをテーマにした講義がありました。私たちが見学に行った調剤薬局には処方箋の情報はいつているバーコードを機械に読み取らせると自動で薬がボトルに詰められるアメリカで最新の機械が導入されていて、ピッキングの速さと便利さにまず驚きました。さらにアメリカにはテクニシャンと呼ばれる薬剤師免許を持たない人がいて、テクニシャンが機械でピッキングしない塗り薬などを取りそろえ、最終的に薬剤師が監査をして薬を患者に渡すという流れでした。電話やファックスでも処方を受け付けており、また薬を宅配するといったサービスも行っていて、見るものすべてが新しく、日本にいる私には考えられないものばかりでした。アメリカの薬剤師は処方をだすことができるので、アポイントや保険が不要な点からまず薬局に来る患者もいるらしく、アメリカの薬剤師は患者からの信頼性が高く、地域への貢献が大きいと実感しました。学生のうちに注射のトレーニングを受けるので薬局の壁にはワクチン接種の貼り紙があり、アメリカの調剤薬局は、私にはまるで病院かのようにも感じられました。

病院見学では薬剤部の方から貴重なお話を聞くことができました。患者の薬物治療は薬剤師に責任があり、毎日のモニタリングは薬剤師が行い、緊急事態の時のみ医師とコンタクトをとることや検査オーダーができること、医師と医師との間の中立的な立場に立ってプロトコルをつくることがあるそうです。アメリカの薬剤師は治療にとっても大きく関わっており、医師からも患者からも信頼され、半ドクターとして活躍していることが分かりました。

アメリカの医療は私の想像をはるかに超えて発展しており、薬剤師の仕事の幅がとても広がったことから、日本の薬剤師はもっともっとできることがあるのではないかという可能性を感じました。そもそもアメリカの薬剤師には処方権があることや、テクニシャンという職業があるため日本と活躍の場が違ってくるのは当たり前ですが、アメリカの薬剤師の仕事や立場、積極的な志は見習うべきところであり、日本の薬剤師も半ドクターとして活躍できるくらいの知識と技能を身につけ、薬剤師はこういうこともできるのだと医師と患者からの信頼性をもっと得なければ変わっていかないとします。日本には日本の良さがあり、また日本独自の傾向や医療方針があるのでアメリカの良さを取り入れつつ、「日本の薬剤師」として新たな活躍の場を広げていくべきだと思いました。私はこれから薬局と病院の実習を行うので今回の研修で学んだことと比較しながら将来の薬剤師像について考えていきたいです。

今回の研修では見るもの聞くことどれもが新しいことばかりでとても貴重な経験ができました。研修を支えてくださった USC や病院、薬局の方々に深く感謝しております。